

矢谷令子, 福田恵美子, 藤井浩美 (編集)

日本の作業療法発達史 —萌芽期の軌跡を尋ねて—

奥 野 英 子

(日本リハビリテーション連携科学学会, 前理事長)



リハビリテーションは利用者の立場に立って、総合的なサービスが提供されなければなりません。総合リハビリテーションは、医学的リハビリテーション、教育リハビリテーション、社会リハビリテーション、職業リハビリテーション、リハビリテーション工学等の5分野から構成されると、1970年代から国際的に推進されてきました。そして、リハ分野間の連携、各種専門職間の連携、専門職と障害当事者・家族との連携が求められています。

このような総合的なリハビリテーションにおいて、どのリハビリテーションの分野においても重要な役割を担っているのが、作業療法士です。作業療法士への期待は非常に大きいです。

このたび、矢谷令子先生、福田恵美子先生、藤井浩美先生によって、わが国に作業療法が導入され、作業療法士を養成していく経過から、現在のさまざまな現場において作業療法士としてどのよう

な実践をなされているかまで、60年にわたる歴史と現在の状況を、過去の重要な文献を掘り起こして歴史的な書籍としてまとめられました。障害の当事者の立場に立ってこれまで素晴らしい書籍を発行されてきたシービーアールから、372頁にもわたる膨大な学術書ともいえる本が完成したのです。

本の構成は膨大なものであり、【第一部】「専門職としての軌跡」は、第Ⅰ章 作業療法の起源、第Ⅱ章 作業療法制度化への動き、第Ⅲ章 作業療法士養成に関わる教育関連事項、第Ⅳ章 日本作業療法士協会～発足からの四半世紀～、第Ⅴ章 大空に描く感謝、から構成されています。

第一部には、わが国のリハビリテーションの基礎を築いてくださった偉大な諸先生方の貴重な文献がたくさん引用されています。私も1960年代後半からリハビリテーションの分野で仕事をしてきましたので、ご縁のあった砂原茂一先生、小池文英先生、五味重治

先生、津山直一先生、澤村誠志先生、上田 敏先生等による作業療法・作業療法士にかかわるご貢献を真剣に読ませていただきました。

【第二部】「臨床分野における実績」は、第Ⅰ章 身体障害、第Ⅱ章 精神障害、第Ⅲ章 小児発達、第Ⅳ章 高齢期関係、第Ⅴ章 これからの作業療法、から構成されています。

この膨大な学術書の発行は元・三輪書店社長の三輪 敏様の発案であったと序文に書かれています。が、矢谷先生ら3名の編者のご努力、そして、総勢50名以上にわたる作業療法士の方々のご寄稿による賜です。わが国のリハビリテーションの基礎を築かれ、作業療法の確立に寄与された大先生方の文献を多くの方々と共有できますことをうれしく思います。

〔 B5判 372頁 3,200円+税
シービーアール 刊
☎ 03-5840-7561 〕